



青山病院 『ふれあいニュース』

2024 . 3

3月号

2024年4月、健診センターから新しい健診が始まります。

本格的な春の訪れと共に青山病院でも、新しい取り組みが始まります。

2023年リニューアルした青山病院健診センターにて、**藤井寺市国民健康保険 人間ドック、大阪府後期高齢者人間ドック、羽曳野市国民健康保険 人間ドック、藤井寺市胃がん検診（内視鏡検査Ⅱ胃カメラ）**が始まります。どんな内容をざっくりと説明いたしますと、胃カメラ、腹部エコー、眼底・眼圧(契約医療機関にて受診)など30項目を超える健診内容を受けていただけるコースとなっています。(お住まいの地域により実質負担額が異なります)

健診当日にいったん約30000円をお支払いいただきますが、ご自身でのお手続きにより、健診費用の一部が返還されるため、大変お得なコースとなります。

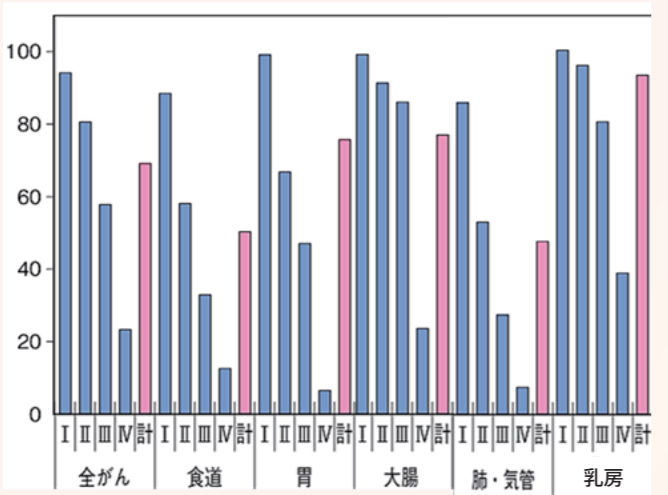
上記の人間ドックの詳細は当院健診センターにお気軽にお問い合わせください。

詳しくは、青山病院健診センターのパンフレット『健康診断のご案内』もご参照ください。

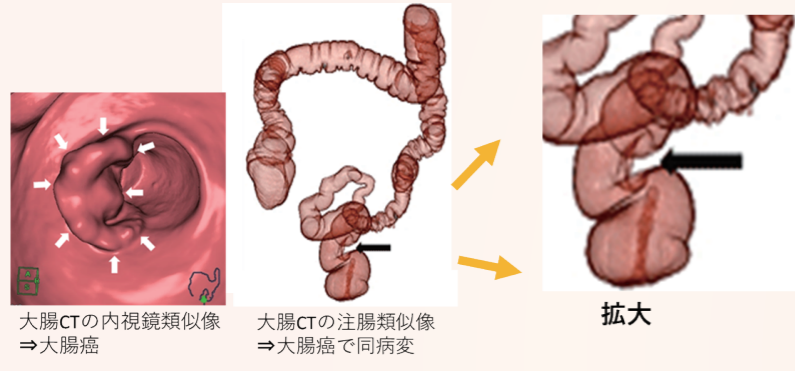
日本の部位別がん死亡率は、2022年、大腸がんは女性では第1位、男性では第2位と増えています。幸い、大腸がんは、早期に発見・治療することにより、完治しやすいがんです。早期発見のための検査として、便潜血検査に続いて大腸内視鏡検査があります。しかし、大腸内視鏡検査はつらいとの声も多く、精査として大腸CT検査が注目されています。大腸CT検査は大腸内視鏡ほど苦しくなく、検査時間も短くてすみ、6mm以上の大きさのポリープから診断可能です。便潜血陽性の場合にはまず、当院での大腸CT検査をおすすめします。



臨床病期別5年相対生存率 男女計



全がん協生存率調査2022年



大腸CTの内視鏡類似像 ⇒大腸癌

大腸CTの注腸類似像 ⇒大腸癌で同病変

拡大

藤井寺市胃がん検診（内視鏡検査）は藤井寺市が行う初の内視鏡検診で、胃カメラが20000円で受けていただけるコースとなります。また、内視鏡検査は当院の消化器内視鏡専門医が行います。胃部内視鏡検診の詳細は、4月以降に当院健診センターまでお問い合わせください。

健康診断の目的 その①『がんの早期発見』

厚生労働省の人口動態統計によると、2022年死因の第1位はがん(24.6%)、第2位は心疾患(14.8%)、第3位は老衰(11.4%)となっています。日本人の2人に1人はがんにかかり、4人に1人はがんによって亡くなっていることとなります。

左上のグラフは主ながんの5年生存率をみたものです。がんの病期はI~IVに分けられます。病期Iは早期がんで、どのがんも5年生存率は90%を超えています。病期IVは最も進行した状態(遠隔転移あり)で多くのがんで生存率は20%程度と極端に下がっています。グラフが示すように、がんは発見が遅れば遅れるほど生存率が悪くなりますので、なるべく早く発見することが大切です。健康診断の大きな目的はがんの早期発見にあります。

また、大腸CT検査でポリープあるいはがんが疑われた場合は大腸内視鏡検査が必要です。なお、大腸内視鏡検査は当院の消化器内視鏡専門医が行っています。

健康診断の目的 その②『生活習慣病の早期発見』

死因の第2位(2022年)は心疾患です。最近、生活習慣病に関連して慢性心不全患者が増えています。心不全は図のように分類され、隠れ心不全の早期発見・治療が重要視されています。

従来、心不全の診断は心エコー検査などで行われましたが、2023年、専門学会より血液検査のBNP/NT-proBNP検査が心不全の診断に有用であると推奨されました。特に症状のない段階のいわゆる隠れ心不全の発見に有用です。当院の健康診断ではオプションでNT-proBNP検査が2500円で追加できますので、無症状であっても高血圧・糖尿病・動脈硬化など危険因子を有する方には特におすすめです。



生活習慣病に関連する『脳ドック』

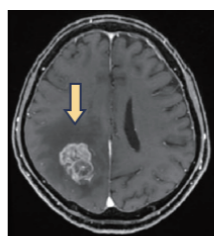
脳卒中は脳の血管が詰まる状態（脳梗塞）と脳の血管が破れる状態（くも膜下出血、脳出血、脳動脈瘤の破裂など）があり、突然発症して命を落とす方も少なくありません。また、発症後に一命をとりとめても、体に麻痺や言語障害などの後遺症を残す方も多く、一度の発症で人生を大きく左右する疾患です。そのため、早期発見と治療が最も重要です。

脳ドックは、脳卒中や脳腫瘍といった脳の病気を見つけるために行われる一連の検査を指し、下の表・画像のように頭部MRI・MRA検査、頸動脈エコー検査などがあります。

検査項目	検査でわかる病気
頭部MRI検査	脳実質の状態（脳腫瘍、脳の萎縮の程度、過去に生じた無症候性脳卒中など）
頭部MRA検査	脳血管の様子（脳動脈瘤や狭窄、閉塞など）
頸動脈エコー検査	頸動脈の様子（狭窄や動脈硬化など）

さて、動脈硬化とは血管の壁に血液中のコレステロールなどが沈着（プラーク）して血管の壁が厚くなり、硬くなって弾力性を失った状態のことで、高血圧症、脂質異常症、糖尿病、肥満などの生活習慣病の積み重ねを反映します。

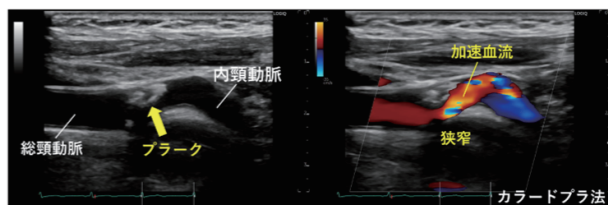
頸動脈は全身の動脈の窓とも言われ、頸動脈の硬化があれば他の動脈も同様の変化を来していると推測されます。無症状でも左記に当てはまる方は脳ドック健診をご検討ください。



MRI画像 脳腫瘍



MRA画像 脳動脈瘤



頸動脈エコー画像

《脳ドックおすすめの方》

- ・40歳以上でまだ一度も脳ドックを受けたことがない方
- ・高血圧症、脂質異常症、動脈硬化などの診断を受けている方
- ・家族や血縁者に脳卒中になった方がいる。もしくは糖尿病、高血圧症の傾向がある方
- ・飲酒、喫煙の習慣がある方

青山病院の脳ドックでは、MRI・MRAは青山脳神経外科病院（送迎あり）で撮影し、その他の検査は当院で行っています。

『二次検査の重要性』

せっかく健康診断を受けても

『二次検査の必要性を既読スルーしていませんか？』

健康診断を受けた方で結果に異常所見があり、二次検査の指示があっても受診しなかった方はナント約3人に1人（38.2%）もあることが判明しました。これは2023年に『ニジケンProject』の一環として行われた健康診断・人間ドック受診者、約6万人の全国調査で「糖代謝検査（血糖値）」、「腎路系検査（腎機能、尿検査）」、「心電図検査」、「呼吸器系検査（胸部X線）」で二次検査指示も検査を受けなかった方の割合です。

受診しなかった理由は

「現時点での緊急性（必要性を感じないから）（35.8%）」と最も多く、次いで「自覚症状が無いから（24.0%）」があげられました。

「正常性バイアス」という言葉がありますが、それは「自分だけは大丈夫だろう」という根拠のない思い込みです。

『健診は無症状の方こそ受けていただきたい、症状があれば健診ではなく通常の受診です』当院の健診受診者からお二人のケースを紹介いたします。（提示の了解はいただいています）



Aさん、50歳の男性。健診受診時は何の症状もなかったのですが、白血球数が多いため二次検査となり、精査を行ったところ白血病と判明しました。適切な治療で寛解され、現在元気に働いておられます。



Bさん、60歳の男性。胃部症状はなかったのですが、胃部内視鏡検査で小さなびらんを認めました。精査の結果大きさ6mmの早期胃がんと判明し、内視鏡的粘膜下層剥離術を受け治癒しました。当院の内視鏡検査で経過観察し、再発はなく元気に働いておられます。

お二人とも受診時の症状はなにもなく、もし無症状だからと結果を既読スルーしていたら今頃どうなっていたのでしょうか・・・

また、先ほどの調査で心腎代謝にかかわる疾患で通院中の人のうち91%の人が「二次検査」が治療のきっかけになったと回答しています。

ぜひ、健診を受けられましたら検査結果項目を熟読していただき、異常所見がありましたら適切な「二次検査」を受けていただくようお願いいたします。気になることがございましたら、お気軽に健診センターまでお問い合わせください。

健診センター長 北江 秀博